



磐二小だより

磐梯町立磐梯第二小学校
令和7年8月29日
第7号
発行責任者 天野 圭

キラキラとひとみが輝く二小の子ども

【全学年算数科自由進度学習が始まりました】

2学期になり、1・2年生も算数科の自由進度学習に取り組みました。まだ始まったばかりですので、戸惑いもあると思います。もちろん分からることは、先生や友達に聞きながら進めることも大切ですので、遠慮なく自分が分からることは積極的に聞きながら進めてほしいと思います。低学年で大切なことは

- 分かったふりをしないこと。
- ゆっくり取り組んでいる友達をばかにしないこと。
- 自分の目標に向かって、継続してがんばること。
- 失敗を恐れないこと。 です。

失敗した時、いつまでのその内容にこだわり、立ち上がらないことが恥ずかしいと思います。小学生の時期、成功体験や失敗体験をたくさん経験して、さらに大きくなってほしいと願っています。

また「今までいい。」と思っている子どもがいたら、自分の成長を止めてしまうことになるかもしれません。さらなる自分を目指してがんばってほしいです。力の限り応援します。

【学校はどこまで介入できるの】

先日、町校園長会議の中で、話し合いとなった内容に「下校時における児童同士のけんか等に伴うけがについて」の内容がありました。児童同士が下校時にけんか等によりケガをした場合、その責任はどこにあるのかという内容でした。

町雇用のスクールロイヤー（弁護士）によると、学校には責任はないとのことでした。

しかし、大切なことは、下校時、事案が発生する前に「このようなことはいけないことだよね。」とか「友達の身体と心もとても大切です。傷つけることはいけません。」等としっかりと事前指導が行われていたかがとても大切なことだという話でした。

そうなれば、登下校について家庭で責任をもって登下校させるということになります。

以前学校だよりで

→「車両で送迎する場合、児童の安全確保の観点から、他児童との相乗りはご遠慮ください。」とご連絡したことがあります。

併せて、下校時、職員が保護者から「〇〇さんも車に乗せていいですか。」と聞かれても「はい。とは言えません。」と記載しました。その内容も、各家庭で連絡がとれていれば、学校でどうこうというような内容ではないということになるのでしょうか。

管理職になると「責任はどこ。」と考えてしまうのが本音です。しかし、どの時間にどこで何をしていても、大切な本校児童であることに変わりはありません。責任だけを追究するあまり、地域との関係が希薄になったり、教育の原点を見失ったりしないように十分気を付けていかなければと思います。大切なことは「互いに話し合うこと。」ですね。よろしくお願ひいたします。

【多様性について】

職員会議や他の会議でも「多様性への対応」というテーマで協議することが増えてきました。夏季休業中に考えていた一つが「多様性」についてでした。現在もですが「多様性」と「学校生活のきまり」との関係について考えるところがあります。

多様性とは 様々な特性を持つ人を認め、尊重し、共存していくことだと捉えています。

このような場合は多様性？

- 肌のアレルギー等がないのに、暑い日、長袖・長ズボンを着て活動する子ども
- 髪の毛を染めている子ども
- 身体的な理由がなく、授業中、帽子をかぶっている子ども
- 毎回、体操着ではなく、普段着で体育を行う子ども

このようなことも多様性？と捉えると「学校生活のきまり」との関係性はどうなるのでしょうか。

私なりにこの関係性を次のように考えています。

○学校の教育目標 → 「自己を拓き 共に生きる 社会性の高い子ども」

○合い言葉 → 「キラキラとひとみが輝く二小の子ども」

○目標を達成するために

→ 児童・保護者、職員、地域とねらいを共有しながら、同じ方向性で目標達成を目指す。

○そのために → ねらいを達成するために、学校生活のきまりは必要です。

※ ただし、多様な考えを聞きながら、よりよい学校生活になるように、考えを集約し、学校生活のきまりに反映させることもとても大切ですね。

【カニの沢】

前日、ホームページでご紹介しましたが、校舎から体育館へ行く途中の小川に、サワガニがたくさんいることが分かりました。1年生が生活科の学習で、サワガニをたくさん見つけることができました。また6年生も事前にカニが生息していることを確認していたそうです。素晴らしい。



そこでこの小川を「カニの沢」と命名したいと思います。もし「この名前がいいのでは。」という別案をお持ちの方がいらっしゃいましたら、校長にご連絡願います。これからも安全な服装で、先生と一緒に新しい発見ができるなどを願っています。カニの沢には、小さな魚もいたようです。大切にしましょうね。「カニの沢」

【校長のひとり言】

夕食担当者としての私は、退勤後に車の中で「今日は何を作るかな。」と考え、毎日食材を購入しています。「昨日は冷やし中華だったから、今日はご飯かな。」とか「昨日が揚げ物だったから、今日はさっぱり物かな。」等と考えて購入しています。ここまで普通の家庭でもよくある場面だと思います。しかし、我が家は魚介類・肉類を食べることができないのです。もちろん出汁等の粉末等も駄目です。聞くところによると「父の母親（祖母）が戦時中、肉魚を食べることができなくてそうになったと。」現在で言えばアレルギーでしょうか。そのために、肉魚を抜いた夕食と肉好きな母親の夕食という具合に2つのパターンが必要なのです。さて今日は何にしようか考えています。物価高騰もかなり心に響きます。